

令和4年度第1回岡崎市総合政策指針審議会 会議録

委員

あいち三河農業協同組合 代表理事組合長	天野 吉伸	委員
岡崎商工会議所 会頭	大林 市郎	委員
東京大学 教授	小川 光	委員
名古屋都市センター長	奥野 信宏	会長
早稲田大学 教授	小野田 弘士	委員
岡崎市医師会 会長	小原 淳	委員
連合愛知三河中地域協議会 副代表	北村 隆一郎	委員
岡崎市教育委員	千野 智子	委員
岡崎市総代会連絡協議会 会長	長坂 秀志	委員
名古屋大学 名誉教授	福和 信夫	副会長
東京大学 准教授	村山 顕人	委員
岡崎信用金庫 地域振興部 部長	八木 則行	委員

(事務局)

総合政策部 部長	手嶋 俊明
総合政策部企画課 課長	岡田 晃典
総合政策部企画課 副課長	板坂 英幸
総合政策部企画課 係長	中村 衣里
総合政策部企画課 事務員	鈴木 のどか

日時 令和4年10月17日(月)

※新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため書面にて実施。

【会長の総括意見】

- ・コロナ禍と人の対流の停滞、経済不況の渦中で、総合戦略が概ね順調に実行に移されていると感じる。
- ・コロナの影響がまだ数年続くと予想されることから、KPI 指数による評価の仕方に十分注意して事業を進めていただきたい。
- ・東岡崎駅周辺整備は、岡崎市の街の「格」を考慮した計画を期待する。
- ・岡崎市の市域の拡大に伴い、利便性の高い公共的な移動手段の整備に努めることは最も重要な活性化施策であると考えます。

・子育て支援については、子供の出生への効果を十分に見定めることが大切だと考える。

・街づくりについては、多様な主体の参加が基本である。NPO 等については、財政的に自立して活動する団体の育成に引き続き配慮していただきたい。

【各委員の主な意見と事務局回答】

○目標設定および令和3年度実績について

・全般的な実績および進捗状況について、コロナ禍の影響が残っている中で、ハード面での整備を中心に順調に進んでいるように見える。

・実績および達成については評価できるが、コロナ禍の影響で一部未着手の項目等が見受けられる。数字ありきではないが、来期はスピード感を持って取り組むよう要望する。

・個々の KPI のなかで、達成の難易度が異なるものも含まれていると考えられる。達成指標においても、目標設定の妥当性を検証することが求められる。

(事務局)

KPI の達成難易度の異なるものが含まれている要因については、現在、国庫補助事業等の KPI との整合性を図っているものと独自で KPI を定めるものが混在している状況にあることが考えられる。また KPI の妥当性に関して、現在、活動指標を KPI として設定しているものが存在すること、主に担当課とのヒアリングをもとに KPI を設定していることを見直し、成果指標を KPI として定めることや前年度の実績をもとに伸び率を考慮して定量的に KPI を定めること等、適正な KPI 設定となることを事務局において検討したうえで、本審議会にて審議していただくこととする。

・コロナ禍からの回復、市民生活や行政の正常化において非常に重要な時期を迎えている。あらかじめ設定された年度別 KPI だけでなく、市におけるコロナ禍による影響を広く詳しく分析し、マイナスの影響を受けた事象については、今後その影響が固定化しないように対策を考えることが重要であると考えます。

○(取組の柱) 中心部民間投資誘導(主な事業) QURUWA 戦略推進

・QURUWA の公共空間活用により街の雰囲気が変わりつつある。今後、名鉄の第 2 期整備により更に活気溢れる地区になることを期待する。また、QURUWA の玄関口である東岡崎駅前街区についても公共性を確保しつつ整備していくことができれば、より快適で居心地の良い、人が集まる空間を造りあげることができると考える。

○（取組の柱）周辺部・山間部民間投資誘導（主な事業）各区画整理推進

・「今後は鉄道駅周辺での良好な住宅供給を進めることが必要である」とのことであるが、駅周辺の土地区画整理事業については、住宅供給だけではなく、まちの拠点としての機能の充実なども課題なのではないか。また、それらを具体的にどのように実現するのか。

（事務局）

駅周辺の土地区画整理事業については、都市拠点及び地域拠点として、住宅供給のみではなく、まちの拠点機能の誘導を図ることも必要と認識している。各地区の地権者の土地利用の意向を確認しながら、土地の集約化や大街区化の可能性を検討するとともに、拠点機能を提供する民間事業者への意向調査等も行い、土地利用のコーディネートを検討していく。

○（取組の柱）周辺部・山間部民間投資誘導（主な事業）阿知和地区基盤整備

・阿知和地区基盤整備事業の中で、「総合的産直施設の設置」を盛り込んでほしい。産直施設は地域農業者の直売施設の1つに位置づけされており、農業生産者は高齢化と減少傾向にはあるが、農産物の生産・出荷に取り組むことで、高齢になっても健康で生きがいをもって農地の保全や地域市民へ「食」の提供ができる。また、スマートインターが設置されることにより、市内外から大勢の消費者の来訪が見込まれ、新規農業従事者の育成・確保に繋がっていく。そして、耕作放棄地拡大の抑制・解消への効果が期待され、緑豊かな「まちづくり」の実現を可能とする。今、日本の「食」はさまざまなリスクに直面しており、国も「食料安全保障」の強化が近々の課題として位置づけられている。

（事務局）

本市北部には、おかざき農遊館、農業支援センター、市民農園など農業支援施設が集約されており、おかざき農遊館は、平成8年のオープンから約27年が経過し、施設も老朽化が進み改修等を検討していく時期となっている。また、スマートインターチェンジや工業団地の造成といった環境変化による交流人口の増加が見込まれる中で、おかざき農遊館、農業支援センター、市民農園など農業支援施設が、農業者のみならず市内外から訪れる方々にも親しみや楽しみをもって活用されるよう農業支援施設の必要な機能や規模等を見直し、農業支援施設を拠点とした地域のにぎわいが創出されるものとなるよう、現在、構想の策定を進めている。この中で、「総合的産直施設の設置」については、公共施設総合管理計画も踏まえ、公民連携手法での設置も視野に入れつつ検討していくものと考えている。

○（取組の柱）周辺部・山間部民間投資誘導（主な事業）中山間地域投資誘導

・額田地域の魅力は、外部からの視点と地域住民の視点とでは異なるものがあると思う。教育、交通、空き家、耕作地放棄、森林、獣害や観光などの各対策が複合的に結びつき、移住や就業、出店や観光などに繋がる。地域おこし協力隊が魅力発信をしやすい環境づくりや、地域住民、企業、個人などとの情報共有ができるよう、それらをつなげサポートする必要がある。現在市役所本庁内にある中山間政策課を現地の額田支所内へ移し、連携を密にして業

務の強化・効率化をする必要を感じる。

(事務局)

地域おこし協力隊が魅力発信や地域活動に取り組む中で、本市とは月1回の報告会や、適宜情報共有を図りつつ進めている。また、中山間地域の各学区には、地域住民から移住アドバイザーを委嘱して地域情報等の収集を行っている。今後、移住希望者と地域の橋渡しともなるよう推進する。現在、本市の支援のもと地域主体で地区別計画の策定に取り組んでいる学区もある。引き続き支援を行うとともに、他学区へも計画作成に向けての働き掛けを行っていく。

額田支所への移転については、旧岡崎市も中山間地域の対象地域に含まれること、本庁内での事務的調整等のために慎重に検討していく。

○(取組の柱) 拠点をつなぐネットワーク構築(主な事業) 新たな交通システム導入

・新たな交通システム導入「移動手段の確保策の導入」では、高齢バス利用件数のほか、そのような実績を毎年重ねていくことにより、若い市民の通学利便性・手段の向上や、新規に確保あるいは維持された移動手段、運行頻度の増加に繋がることを期待させる取組が成果として出てくるとよい。

○(取組の柱) 都市の強靱化(主な事業) 雨水対策推進

・グリーンインフラストラクチャや Nature-based Solutions など、自然の力を活用した雨水対策の推進が重要ではないか。

(事務局)

現在、雨水浸透施設整備や浸透ます支給などの雨水流出抑制対策、下水道整備事業による雨水対策を推進している。自然の力を活用した雨水対策について、水田貯留や農業用ため池の治水利用等について検討を進めているが、岡崎市の地形に合致する効果的な事例についても模索し、検討していく。

○(取組の柱) 子育て環境整備

・子育て環境整備に関して、市内における子育て支援サービス(保育や学童など)は大都市部と比較して民間のサービスが未発達であり、公的なサービス以外の選択肢が少ない印象である。共働きの増加や核家族化などによるニーズの拡大に柔軟に対応し、より多くの希望者が希望通り利用できるように、引き続き対応を進めていただきたい。

(事務局)

市内における子育て支援サービスの提供主体としては、公立の保育園や認定こども園、総合子育て支援センターのほかに、民間の私立保育園や私立幼稚園、認可外保育施設等が挙げられる。大都市部と比較して民間のサービスが未発達であるとのこと指摘であるが、保護者の多様な働き方に対するきめ細やかなサービスは、認可外保育施設がその受け皿となってい

るケースが多く、本市においても現在 53 施設が、需要の高い保育サービスを中心に保護者のニーズに寄り添ったサービスを提供しているところである。保育を必要とする児童及びその保護者に対し、基本的な保育サービスを提供する責務は市にあるが、現在、本市においては、待機児童が生じている状況にあるため、この待機児童を解消することが優先すべき施策となる。今後、待機児童が解消した後は、多様な保育ニーズにどのように対応すべきか、民間サービスか否かに関わらず検討を進めていきたいと考えている。

また、学童における本市に参入する際の指標として、利用ニーズが高い地域で民間放課後児童クラブを開設する場合は、運営にかかる費用の一部を補助し、民間放課後児童クラブの運営の安定化を図っている。引き続き、補助金の情報や待機児童の多い学区の情報について広く提供し、参入を促していく。

○（取組の柱）子育て環境整備（主な事業）保育定員拡充

・子育て環境整備「保育定員拡充」では KPI 達成が×になっているが、目標値 110 人のところ、入所児童の年齢等を考慮した結果として実現地 109 人となったということであり、全く問題ないとする。むしろ数字でとらえられる量的側面以外の部分で、実態に合わせて質的向上という本質的な部分で改善を図った結果であると肯定的に理解できる。

○（取組の柱）子育て環境整備（主な事業）子育て情報発信強化

・すくすくメール登録件数 100 件増の目標に対して 17 件増に留まっている現状について、より細かな対策が必要と思う。核家族化が進み、出産や子育てに悩みを抱えている人は増加しつつあり、育児放棄や虐待へと社会問題化する事案も多くある。出生届が出された時点から個別のフォローができる体制づくりをするとともにメール登録を勧め、子育てに関して必要とされる情報発信ができる仕組みを構築し、徹底することが良い結果を生む。また、各学区の民生委員児童委員が実施している乳幼児対象のイベント企画とのタイアップも可能であるとする。

（事務局）

「すくすくメール」は、令和 4 年 7 月より LINE へと媒体を移行させており、「妊娠期」における登録者数は、令和 4 年 6 月末時点では 282 人であったのに対し LINE 移行後の 9 月末時点では 345 人と増加している。毎年度実施している利用者アンケートの中で、昨年度調査における利用者の満足度について 90%以上のかたが「登録してよかった」と回答しており、配信情報に対して一定の満足を得られていると認識し、引き続き有効な子育て情報を配信していく。また、アンケート調査内で配信希望の多かったコンテンツを積極的に配信する。周知方法としては、以前より母子健康手帳交付時、児童手当申請時、赤ちゃん訪問時等の際、また子育て支援団体や親子向けイベント時にチラシ配布を行っていることに加え、令和 4 年 10 月より新たに父親への周知として、母子健康手帳交付時及び児童手当申請時に「パパおめでとうカード」の配布を開始した。母親だけでなく家族、特に一番身近な存在で

ある父親への登録を促進することで、母親の心身疲労の軽減に向けて取組を始めたところである。民生委員児童委員のイベントにおける周知に関しても、各イベントでの需要について検討したうえで積極的に取り組んでいきたい。

また、個別のフォローとして、すくすく LINE 上では自身の子どもの成長時期に合わせて情報を提供しているが、LINE への移行に伴い、個別相談窓口の案内についても配信数を従来のおよそ2倍に増やし、気軽に相談できる体制づくりに取り組んでいる。今後も母親をはじめとした心身疲労の軽減に向けて、引き続き個別フォローに努めていく。

○（取組の柱）商業・コンテンツの集積（主な事業）ナイトタイムエコノミー推進

・乙川ナイトマーケットについて、夜間コンテンツとしてとても良い試みだと感じた。市民が気軽に集まれる機会や場所の創出は地域の活力を生み、観光での宿泊は夜の行き場があることは大事な要素の一つである。また、地域のお祭りが衰退する傾向にある中で、地元の若者が集える場所にもなりえる。日本では「夜市」で有名な場所はあまりないため、台湾夜市とまではいかずとも、集客力を高め、ぜひ継続して育ててほしい素晴らしい取組であり、高く評価したい。

○（取組の柱）産業人材・技術の集積（主な事業）創業・多様な働き方支援

・創業・多様な働き方支援「未利用不動産の活用」ではセミナー開催件数が KPI になっているが、空き家・空き店舗・空地などが利活用されるようになることを最終目標とするのであれば、セミナー開催などを通じて未利用不動産が活用されるに至った件数などで示されるような成果があがることを期待している。

○その他

・若い世代が岡崎に住みたいと思うまちづくりには、妊娠、出産、保育、教育の手厚い支援が必要。若い世代が定着してこそ岡崎の将来があるため、より積極的な政策が望まれる。

・ジブリパークの開業は東京でも話題になっており、海外にもジブリファンは多いと聞く。

名古屋ー（リニモ）ージブリパーク（愛環）ー中岡崎ー八丁・岡崎城・

東海オンエア聖地・アウトレットモールー名古屋

といった愛環を使った観光ルートが定着すれば、岡崎での宿泊が見込まれる。リニア新幹線ではなく、リニアモーターカーとして走っている電車が名古屋にあることを知らない人が多く、興味を持つ人もいる。近隣自治体と協力した新たな観光ルートの開拓も期待している。

・カーボンニュートラルを推進していくために、官民連携による取組は必要不可欠である。従来の延長線上では達成できないことも多いため、今後の政策の中で具現化していくことを期待する。